

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

# 三春わが街

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

## ■コミュニティだより

VOL. 85 (年4回発行)

■発行日 平成29年 9月30日  
■発行 三春まちづくり協会  
■編集 三春まちづくり協会広報部会  
三春町大字貝山字泉沢100-1 (旧若駒寮)  
TEL/FAX (62) 3988

### 『出前懇談会の開催』

— 明治期に活躍した三春の人々 —  
町の課題をみんなで考えましょう

八月九日、まほら学習室において出前懇談会を開催いたしました。今回は、歴史民俗資料館主任主査(学芸員)でいらつしやいます藤井典子さんを講師にお招きして「明治期に活躍した三春の人々」というテーマでお話をいただきました。

明治の人物伝というと、三春では自由民権運動に携わった人々が第一に挙げられますが、それ以外にも電信技術者や翻訳者、医学者などいろいろな方がいる。いろいろな方面で活躍しています。その方々はどうかやって三春を旅たち、何を学び、どういう活動をしたのか、さらにそうした人々が今日にまで及ぼしている影響などを中心にお話をしてみました。

【藤井典子さんが要旨をまとめた資料によりお話しされた人々の内容は以下の通りです】

◎深間内 基  
男女同権論の翻訳者(抄訳)  
弘化三年(一八四六)、深間内家の長男として生まれる。二十二歳で慶應義塾へ入学、英語を学ぶ。ジョン・スチュアート・ミルの「婦人の隷属(邦題は男女同権論)」の翻訳者として有名。明治九年、土佐の立志学舎へ英学教員として招聘される。立志学舎は奇しくも後に河野広鉢らが留学した学校である。後に仙台で自由民権運動、女性の教

育に携わった。  
◎三浦 守治  
日本病理学の初め  
(略年表をご覧ください)

◎村田謙太郎  
皮膚病学の先駆者  
文久二年(一八六二)、三春生まれ。藩講所を卒業後、十二才で東京に出て、医師三浦義純の門に入る。その後壬生義塾、東京外国語学校に入学しドイツ語を学ぶ。明治十年東京大学医学部に入学、明治十七年卒。明治二十一年官費留学生となりドイツのベルリン大学などに入学、皮膚病学を学ぶ。苦学したためか体を壊し、三年の予定が二十三年

三月帰朝となる。ただちに皮膚病梅毒科の講師となり(日本最初の皮膚科)、明治二十四年には東京大学最年少の教授となる。学者としての将来を嘱望されつつ、翌明治二十五年に三十一才で病没した。



◎加藤木重教  
「テレフォン大臣」  
明治の電気技術者

安政四年(一八五七)磐城平にて生まれる。父である加藤木直親が三春藩柔術師範として招聘されたため、四才のころ三春へと移る。柔術師範でも、身分として

#### 【三浦守治略年表】

安政4(1857)年	4月30日平沢村に生まれる
慶應元(1865)年	三春城下光善寺井上知完和尚の寺子屋へ入門
明治2(1868)年	三春藩講所へ入学し、熊田嘉膳に学ぶ
明治3~4年	藩主臨席で講読を行い、賞を賜る
明治5(1872)年	東京に出て岡千仞の門に入る、三浦義純の養子となる
明治10(1877)年	東京大学医学部に入る
明治14(1881)年	7月首席で卒業
明治15(1882)年	2月ドイツ留学、ライプツィヒ大学へ
明治16(1883)年	ベルリン大学で病理学者ウィルヒョウに師事翌年ドクトルの学位を得る
明治20(1887)年	3月ドイツより帰国、帝国大学医科大教授となる。脚気病審査委員、中央衛生会臨時委員
明治25(1892)年	8月医学博士の学位を得る
明治27(1894)年	マラリア研究のため三角助手と八重山諸島へ
明治28(1895)年	鹿児島出張(蛇毒の調査)
明治29(1896)年	マラリア調査のため台湾へ
明治33(1900)年	脚気調査のため北海道へ
明治35(1902)年	ヨーロッパ派遣
明治38(1905)年	陸軍省より清国へ派遣
明治43(1910)年	療養のため休職 従三位に叙せられる
大正3(1914)年	東京帝国大学名誉教授となる
大正4(1915)年	歌集「移岳集」刊行
大正5(1916)年	2月2日死去

は徒士であるため、維新前は講所への入学資格はなかった。そのため熊田嘉膳などが自宅で開いていた塾に通い、漢籍などを学んでいたという。明治二年に至り講所へ入学、同じ安政四年生まれの三浦守治が同時期の入学であった。明治四年、藩の洋学修業生として慶應義塾へ入学、慶應での世話役は深間内基らである。明治六年、慶應義塾が学費値上げとなったため退学し、その後は給費生となれるところを探し、電信技校(工部省電信寮)の官費給費生となる。自身は電信技術者として訓練され、ケーブル敷設、修繕などに携わったが、早い段階で電信より電話の有用性を訴え、電話の研究に携わる。またその過程で日本最初の火災報知器を作成することになる。

「電気之友」刊行、電気之友社設立により、電気関係のコンサルタントとしての地位を確立。昭和十五年没。  
◎影山 正博  
民権運動を支えた  
産馬会社社長  
弘化三年(一八四六)生まれ。年少時より河野広中とは親しく、自由民権運動では、弁士として演壇に立つことはなくとも、河野広中らと行動を共にしている。戊辰戦争の際には、広中兄弟らと最初に政府軍と接触したといわれる。明治八年の石陽社、十一年の三師社などの立ち上げなどにも加わり、福島自由新聞の発起人にも名前を連ねる。十四年の第二回県会議員選挙で当選し、田村郡からは河野・松本芳長・影山正博の三人が県会議員となっている。福島事件で逮捕となり、

会津若松へ護送・取り調べ、のち東京の高等法院へ送られたが、十六年四月二日釈放、その後再逮捕され重禁固一年の刑となる(福島監獄)。出獄後、在監中の河野らに対し差し入れ等世話を行ったのは彼である。自由民権運動家としての顔とは別に、影山は福島県産馬会社社長としての顔もある。明治十一年、福島県全域での産馬改良と産馬事業の復活を目指して、福島県産馬会社が創業した。本社は須賀川であったため、影山は須賀川と三春を往復する生活となる。(三春分社長は松本芳長)。産馬会社は明治二十六年まで継続。もともと薬種商などで経済的に余裕があったことあり、三春の民権運動を経済的にバックアップした存在ともいえる。

### 《初心に聴く》

シリーズ ⑪

前号に引き続き、新任委員の方々から寄せられた「まちづくり協会活動に携わる初心」を掲載します。

#### 広報部会

渡辺 徳康さん

私は、二年前定年退職し、少しゆとりしようとして二年間の自由な時間を、過ごしていました。今年度から八島台二区の役員と八島台区会の役員を、お受けする事になりました。自動的に「三春まちづくり協会広報部会委員」の委嘱を賜りました。仕事ながら、自治活動には、参加する事が出来ない事がほとんどでした。八島台に住んで二十九年以来ですが、地域の皆様との交流も少なく、地域の皆様に大変お世話になり、感謝しているところです。これからはお世話になった皆様に、恩返しをしなければとの思いだけで今回、この大役を引き受けることになりました。広報部会の今年のテーマは、「情報を共有し協働するまちづくり活動」を掲げて、部長をはじめ部会の皆様とまちづくり協会の協力をいただきながら少しでも貢献して参りたいと思います。協

会の皆様よろしくお願ひ致します。

#### 広報部会

橋本 勇さん

三春まちづくり協会に、今年度から入会しました、新町一區三班字委員の橋本です。まちづくり協会とは、どんな仕事でどんな活動をするのか今迄まったく分からず興味津々でした。五月十八日の「三春まちづくり協会」総会に参加いたし、事業報告等を聞いて、活動内容があまり分かりました。六つの部会から成り立ち、そのなかで私の担当は広報部会、だそうです。地域住民への情報提供と、意欲をたかめるまちづくり活動が目的、うわく難しそうです、私にそんな仕事が出来るか、自信がありません。自分の仕事一筋、体に汗して働き六十六歳になる現在も、頑張っています。なので、自分の仕事以外何も分かりません。こんな私ですが、推薦された以上出来る限り協力したいと思います。どうぞよろしくお願ひ致します。

### 部会だより

福祉部会講演会に

参加して

八島台 山本博子さん  
福祉部会の方から面白いお話聞きに行かない？と誘

わかれて七月二十七日、まはらで行われた「口福亭龍笑」氏の講演会に参加いたしました。内容は「笑い健康」で初めに、ワツハツハツハの唄で始まり、亡きお母さまのお話では、人の話を良く聞いてやり、いやな話には話題を変えプラス思考にする事で、何事も笑いにしてストレスを発散し溜め込まない様にしていたそうです。



次に私達もストレスを溜めないためのお話や頭の体操ではクイズをして楽しみ、体の健康では片足立ちや、スロージョギングを毎日少しずつ続ける事が大事だということでした。又、三ヶ月の命と言われたらよく笑い、泣きたい時は泣き、感動し生きがいや目標を見つけ笑って過ごせば、認知症や病気にもなりにくくなる。日々少しでも取り入れて生活して行ければと思います。とても有意義な講演でした。

### 城下町・三春中心街散策路の紹介 ⑥

#### ～ 月斎館散策路 ～

元 地域部会長 鈴木 武

北町の国道288号線沿いに広域消防署と町立三春病院があります。消防署のすぐ左上が月斎館散策路の入口になります。左手の中腹に、光岩寺があります。浄土宗のお寺で寛永5(1628)年に三春城主松下長綱の生母星覚院の菩提寺として創建されました。天明5年の大火によって本堂は焼失してしまいました。火の手は、光岩寺北東の北町黒木戸脇から出火し、強い北風にあおられて延焼し、北町、大町、中町、荒町合わせて377軒を焼失する大火となり、光岩寺、同隠居、紫雲寺、同隠居、若王子、天神、愛染堂を焼失しました。現在は仮堂となっています。本尊は木造阿彌陀如来立像で国の指定重要美術品・福島県指定文化財になっていて歴史のあるお寺です。また、光岩寺の裏手は、戦国大名田村氏の一族、田村月斎の屋敷跡です。田村月斎は田村氏三春初代義頭弟頼頼です。月斎(げっさい)は田村氏四代にわたる重鎮で文武に優れ攻めの月斎と称されました。光岩寺山は光る石を産したという伝承がありますが、雲母を含んだ三春石を産したのでしょうか珍重された三春石は採掘され尽くして、現在三春地方に殆ど見ることができないそうです。



### 第14回「三春秋まつり」

&

### 第10回「石柱拓本ラリー」開催のお知らせ

恒例の“三春秋まつり”が下記により開催されます。三春まちづくり協会も協賛事業として街並部会が中心となり、石柱設置活動の紹介と石柱拓本ラリーの開催を企画し参加の予定です。

記

☆期日：平成29年11月4日(土)～5日(日)

両日とも午前9時30分～午後4時

☆会場：三春町運動公園

☆内容：協賛各団体による陳列・即売・イベント等

(詳しい内容は「広報みはる」・開催チラシ等で案内されます)

— 町民の皆さん、是非ご参加ください —

### 編集後記

蝉の声と甲子園球場の歓声を聞きながら少しづつ意識を失っていき、どのくらい時間が経過したのかわからない。いつもの広場にはブリキのバケツと雑魚網を持った四人が約束もなく集まっていた。近所の橋の下から川へと、水の冷たさに驚きながら川上へと進む四人。魚に気づかれないように草むら五、六回掻き回し網を上げる。網を上げる度にゴミばかりで、光り輝く小魚が入っている時は、お互い顔を見合わせ満面の笑みで喜ぶ姿が▼鉄橋の下の緩いカーブは少し深みになっている▼群れで遊ぶ魚が見えるが、深く進むと眺めているうちに諦めがついたのだらうか、さらに上流へと▼すると、いっきに視界が開け正面には堰が見え、そこは自然のプール。十数人は泳いでいるだらうか、中学生かな？小さな子供の両手を引いて泳ぎを教えている。時の経つのも忘れて陽と水と戯れ夏休みを満喫する四人。入道雲も広がり陽が傾くころ、近くの畑の胡瓜、トマトを頬張りながら帰路につく四人▼でも四人の顔と名前がどうしても思い出せない。そんな時「こんにちわ」の声で目が覚め昼寝に気が付く。六十年前の夢を見るなんて思えないが、最近顔と名前が覚えにくい年齢になつていて、事を夢で気付かされた今日この頃である。(今泉栄治)

コミュニティだより  
「三春わが街」第八十五号  
発行日 平成二十九年九月三十日  
発行 三春まちづくり協会  
編集 三春まちづくり協会  
広報部 会  
三春町大字山本栄二〇〇一  
(六一) 三九八八